

こよみ



2017年2月28日

コールセンターからの小さなよみもの



Vol.97

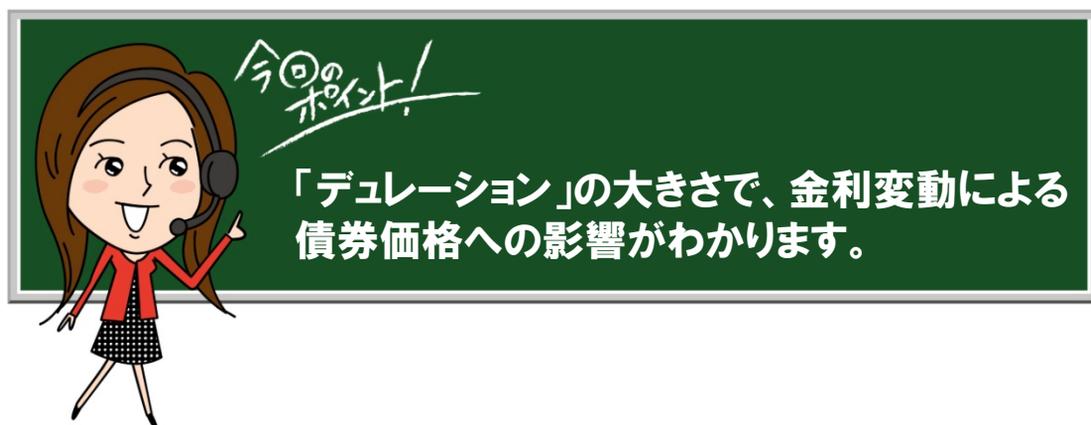
デュレーション

金利変動に対して どれだけ債券価格は動くのか？



米国の金利上昇によって、債券価格の動きに気付かされた方も多いのではないのでしょうか。金利変動に対してどれだけ債券価格が動くのかを見るための指標として、「デュレーション」があります。

そこで今回は、「デュレーション」について押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

一般に、金利が上がると債券価格は下がり、金利が下がると債券価格は上がります。その金利変動に対してどれだけ債券価格が変動するのを見るための指標がデュレーションです。

デュレーションは、年単位で表します。残存期間(債券の満期までの期間)と非常に似ているものですが、デュレーションは残存期間に加え、受け取る利子(利率)も考慮して計算されます。たとえば、残存期間が同じ債券であれば、利率が高い債券の方がデュレーションは短くなります。

金利変動に対してどれだけ債券価格が変動するのかは、概ね次の計算式で導き出すことができます。

$$\text{「債券価格の騰落率」} = -(\text{「金利変動」} \times \text{「デュレーション」})$$

たとえば、デュレーション5年の債券であれば、金利が1%上昇すれば債券価格は5%下落すると計算できます。つまり、デュレーションの値が大きいほど、金利変動による債券価格の振れ幅が大きくなるということです。

同じ発行体の債券であれば、一般にデュレーションの長い債券の方が短いものより利回りが高い傾向にあります。せっかく高い利回りを狙ってデュレーションの長い債券に投資したとしても、金利上昇局面では債券価格の値下がりで、トータルでは損失が出てしまう可能性があります。ただし、金利上昇が緩やかであれば、債券から得られる利子収入が債券価格の下落によるマイナス分を上回る場合もあります。

債券に投資する投資信託のマンスリーレポートには、デュレーションを記載しております。ぜひ参考にしてみてください。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00